

随 想

お み や げ

白 瀾*

中国でも日本でも、人と会う時におみやげを贈る習慣がある。

日本語は漢字で書くと「土産」で、もともと地方の産物の意味である。日本では家人を喜ばすために、旅先で求めて持ち帰った。それでその土地の産物を「土産」という言い方ができてきた。この意味がだんだん広がって、人の家を訪問する時に持って行く贈り物を「御土産」というような言い方ができたそうである。

中国人は他人に贈るものを「礼物」と漢字で表す。意味は敬意を示す贈り物の意味である。この単語は唐朝の《通典》という書物にあり、結婚する時の結納を指していたが、だんだん意味が広がって、普通の贈り物の意味になった。

私が初めて日本の中元で日本の友人に贈り物を送ろうと思ってデパートへ行った時、贈り物の見本を見て驚い

た。どうして味噌、醤油や調味料、タオルや石けんなどの日用品が贈れるのかと不思議に思った。値段を見ると、三千元から五千元。日本では何でも高いので、何でも贈れるのかしらと考えていた。

それから日本人とのつきあいが多くなって、日常のことも話題になってくるようになったので、日本人の考え方が前よりよく分かるようになった。

日本人の考え方と中国人との考え方には正反対のところもあるようである。

日本人は普通の日用品をもらうと、ほかのものよりずっと喜ぶようだ分かった。いつも使えるものなら、役に立つというような考え方が強い。

中国なら、私が知っている範囲に限って、もし中国人同志が普通の醤油とか、洗剤とか、タオルなどをおみやげとして贈ると、怒るのではないかと思う。中国では毎日欠かせないものをおみやげとして相手にあげることができない。もしこのようなものをわざわざおみやげとして贈られると、自分の生活がすでに苦しくなったために贈られたような考え方しかでてこないのである。いわゆる軽視された感じになる。

以上から考えると中国人はおみやげを贈る時に、礼物として贈るので、実用よりまず敬意を重んずるイメージが強そうだ。

* 川崎製鉄(株) 海外管理部